よいのかであろう．そのあたりは，この章の内容と表現が少し難しいこともあり，私には十分には理解できなかった．今後の展開に期待したい．

全体を通して，具体的な環境保全について興味深い事例が多く紹介されており，広く読まれてしかるべき本である．はじめから最後まで通読するというよりは，読者の興味におうじて好きなところから目を通し，よくわからなくなったら，しばらく自分の頭で考えてみる．そのような読み方がよいのではないか，と私は思った．また多分野の研究者，行政担当者，教育関係者などが文章を寄せる場合，その相互関係がどうなっているのかが気になってくる．このシリーズがつづくのであれば，座談会などの形式を用いて，論点や矛盾点を浮き彫りにする企画があってもよいのではないかと感じた．

（片野　修Osamu Katano：〒386-0031 上田市小牧1088　水産総合研究センター中央水産研究所）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
48(1): 59

□魚類学

稚魚の自然史—千変万化の魚類学—． 千田哲資・南　卓志・木下　泉編著，2001．北海道大学図書刊行会，札幌．303 pp. ISBN4-8329-9911-7. 3000円（税別）．本書は，魚類学会員を中心に17名の魚類初期生活史研究者によって，日本における仔稚魚研究の最前線の成果と研究活動のエピソードをふんだんに盛り込んで書かれたものである．第1部の「稚魚と出会う：潜る，飼う，描く」から第V部の「稚魚研究者の卵たちへ：第一歩を踏みだすにあたって」まで17章で構成され，主に稚魚の飼育，識別，生態，分布・移動，機能形態などについて論述されている．後輩の研究者たちには稚魚研究の重要性と面白さを十分に伝えていて必読の書と言えよう．　(AG)

China red data book of endangered animals: Pisces. —S. Wang, P. Yue and Y. Chen (eds.). 1998. Science Press, Beijing (Peking). 247 pp. ISBN 7-03-006401-1．中国版レッドデータブックの魚類編．IUCN-Species Survival Commision基準に基本的に準じてカテゴリー分けされた9目24科78属92種が紹介されている．単なる種名リストに留まらず，全種について形態的特徴，生活史特性，地図付きの分布地点および生息状況の評価など多岐に渡る情報が盛り込まれており，利用価値は高い．また，中国語と英語の双方で記述されており，平易に利用出来る点でもお薦めできる．　（山崎裕治）

Fauna Sinica: Osteichthyes. —Y. Chen et al. (eds.). 1995—. Science Press, Beijing (Peking).中国科学院中国動物志編纂委員会によりまとめられた中国産硬骨魚類図鑑．Tleuronectiformes（1995年刊行），Cypriniformes（の一部）（1998年刊行）およびSiluriformes（1999年刊行）など，目単位で複数巻に分かれる．分類・系統・生物地理など多岐に渡る情報が盛り込まれている．本書の最大の特徴は，各種について図版付きで詳細に記述された形態的特徴である．本文は中国語による記述であるが，巻末に英文の検索表が付されており，検索図鑑としての利用価値が高い．中国に生息する魚類の分類体系の現状を知る上でも格好の資料となる．　（山崎裕治）

□魚類生態学

水生動物の卵サイズ—生活史の変異・種分化の生物学—． 後藤晃，井口恵一朗編著，2001．海游舎，東京．257 pp. ISBN4-905930-76-6．3000円（税別）．魚類学会函館大会において「水生動物の卵サイズと生活史の変異，種分化」というシンポジウムが催された．本書は，その場で交わされた論議に最新の知見を加味して練り上げられたものである．魚類にとどまらず，ブドウガイ，カワゴカイ，テナガエビを対象とした実証的な研究に理論的なアプローチを織り交ぜながら，卵サイズ変異の実態，生活史変異さらには種分化へとテーマが進んでいく．大卵少産・少卵多産と聞くと今や耳慣れた感があるが，個々の動物の生き様をかいま見ることで，進化のダイナミズムに対する新鮮な興味が呼び覚まされるにちがいない．

(KI)